

## 安心・安全な毎日のために

特殊詐欺が連続発生！  
みんなの力で特殊詐欺ゼロ！

3月初旬、本市でも特殊詐欺被害が連続発生し、合計400万円もの被害がありました。その手口は、孫を装った犯人が「熱が出て、喉を痛めたので声がおかしい」「会社の小切手が入ったかばんを落としました」という内容の電話を掛けてきた後、警察官を装った別の犯人が「かばんは見つかったが、小切手は無くなっていく」と電話し、最初の犯人の話を信じさせます。その後、孫を装う犯人が再度電話で「小切手を無くしたことでクビになるかもしれない。お金を工面してほしい」とお金を要求し、関係者が自宅近くまでお金を取りに来るといふものです。



また、還付金を受け取るための手数料や、パソコンのウイルスを駆除するための料金を名目とした詐欺事件も発生しています。

これら詐欺の被害に遭わないために、電話やメールなどでお金の話が出た場合は、詐欺を疑いましょう。電話の相手が、家族の名前を使って「困っている」と言っても、一度電話を切り、冷静になって、他の家

庄原警察署 ☎0824・72・0110

族や警察に相談しましょう。  
「これも詐欺、あれも詐欺、たぶん詐欺、きつと詐欺」という意識を忘れずに。

### 家庭内暴力事件が多発！

庄原警察署管内で、配偶者暴力事案（DV）や、高齢者・障害者への虐待事案、児童への虐待事案が多発しています。

これらは、「家庭内の問題だから」では済まされません。

現在は、家庭内の暴力事案であっても重大事件に発展する前に、積極的に事件化しています。

暴力被害を受けた、認知した、相談したい場合には、庄原警察署や最寄りの交番・駐在所、または、警察安全相談「☎#9110」にご連絡ください。



メールマガジンで事件、事故などの最新情報を配信しています。ぜひ登録してください。  
touroku@anzen.police.pref.hiroshima.jp



## Camera Report カメラレポート

●市内のイベントやまちの話題をお届けします。行政管理課広報統計係 ☎0824-73-1159/Fax0824-72-3322



## 長年の功績に感謝を込めて

県立広島大学 中村健一学長退官記念特別講演会・3/25

No.1

3月末に県立広島大学学長を退官した中村健一なかむらけんいちさんの退官記念特別講演会が、しょうばら産学官連携推進機構の主催により、庄原グランドホテルで開催されました。講演会は新型コロナウイルス感染防止のため、会場での聴講人数を制限し、「YouTube」のオンライン中継と併せて開催されました。

中村さんは、「森と海の豊かさと私達の社会—SDGsの呼びかけるもの—」と題し、同大学のこれまでの歴史や教育、地域連携について振り返るとともに、専門分野である環境生物化学の研究について、SDGs（持続可能な開発目標）の内容を交えて講演しました。また、同大学生物資源科学部教授の三吉好治みやまよしちさんと株式会社vegeta代表取締役社長の谷口浩一やぐちこういちさんが、市内におけるスマート農業の取り組みについて事例発表を行いました。当日は、会場・オンライン合わせて100人以上の参加があり、参加者は熱心に聴き入っていました。

なお、4月1日からは新たに森永力もりながつとむさん（下段写真右から2番目）が学長に就任しました。森永さんは平成9年に庄原キャンパスの前身である広島県立大学の教授として庄原に赴任し、平成17年に生命環境学部の教授、平成19年には同学部の学部長を務めました。本市と関わりが深い森永さんのもと、大学と地域の連携強化が期待されます。



▲講演を行う中村さん



▲講演会終了後に記念撮影



## きれいな仕上がり

塗装の奉仕活動・3/23

No.6

庄原ロータリークラブの皆さんが、社会奉仕活動の一環として、中央児童公園・田園文化センター裏にある戸郷川に架かる橋の、塗装塗り替え作業を行いました。「中央児童公園周辺を人や小鳥が集う憩いの場所にしたい」という思いの下、今回の奉仕活動が企画され、ボランティアで作業が行われました。

奉仕活動は朝早くから始まり、塗料を2度塗りするなど丁寧に作業されました。また、橋の支柱には小鳥のモニュメントが飾られ、作業前とは見違える程きれいな仕上がりとなりました。

中央児童公園や近くに立ち寄った際は、きれいな橋をぜひご覧ください。



▲塗り替え作業をする庄原ロータリークラブの皆さん

## 空き家対策を考える

空き家対策セミナー・3/16

No.8

高野地域自治振興区連絡協議会が、上高自治振興センターで空き家対策セミナーを開催しました。このセミナーは地域創生事業の一環として、一般社団法人さくらブリッジから3人の講師を招いて開催され、地域住民20人が参加しました。

講師は、家財を整理する家族には「そのままにしておきたい」という思いや、「どこから手を付けばいいのか分からない」という問題があること、空き家を放置することによる周辺への悪影響などについて、事例を挙げながら説明しました。

同協議会事務局の草谷洋さんは「登記や相続などを確認して関係者と話し合い、前もって準備しておくことが大切であると改めて感じた」と話しました。



▲セミナーの様子

## みんなで遊ぼう！

東城子育て支援センター サークル合同企画・4/1

No.5

東城子育て支援センターで活動しているサークル「楽々共」と「ありんこクラブ」が、休暇村帝釈峡での草すべりとしゃぼん玉遊びを合同企画し、1歳から10歳の子ども14人とその家族が参加しました。

この日は青空の下にさわやかな風が吹き、絶好の外遊び日和でした。子どもたちは、緑色に染まった芝生の斜面をそりに乗って何度も滑ったり、たくさんのしゃぼん玉を広い空に向けて舞い上げたりと、思い思いに楽しんでいました。

お昼になると、ベンチや芝生の上で弁当を広げてお腹を満たし、子どもたちは満開に咲いた桜に囲まれながら春の一日を満喫しました。



▲芝生をそりで滑る子どもたち

## 地域について知る

自然公園の散策・3/25

No.7

放課後子ども教室が、小学校の春休みを利用して「比和下自然公園」の散策を行いました。

地元住民の津秋法宣さんの案内で、公園内に生息する植物や地層、明治時代に建立された33体の石像などについて教わりながら、地域や自然のことを学びました。

公園での散策後は、比和自然科学博物館に移動し、自然についてのクイズが出題され、子どもたちは散策で教わった知識を生かして問題に挑戦しました。

参加した子どもたちは「山道は怖かったけど、景色がきれいでとても楽しかった」と満足そうに話しました。



▲地域の説明を聞く子ども

## 口和小学校の新たなシンボル

口和小学校校旗の寄贈・4/5

No.2

口南小学校と口北小学校が統合し開校した口和小学校へ、有限会社セルダムコーポレーションから校旗一式が寄贈されました。

校旗に描かれている校章のデザインは、口和小学校校章校歌選定委員会で決定されたもので、「2校が統合して新たにつくられる口和小学校」を表しています。色は自然豊かな里山をイメージして緑色で統一され、中央のひし形は勉学を表現しています。

同社専務の岩瀧賢貴さんは「これから何年先もたくさんの子どもたちを見守るこの旗を大切にもらいたい」と話し、口和小学校校長の竹田行男さんは「大変ありがたく思います。大切に使用させていただきます」と感謝を伝えました。(関連記事：裏表紙)



▲新しくデザインされた口和小学校の校旗



▲岩瀧専務(右)から竹田校長へ校旗が手渡された

## 火災に備えて

消防訓練・3/26

No.4

総領自治振興センターで消防訓練が行われ、同自治振興区の職員と「放課後子供教室」の児童合わせて11人が参加しました。自治振興センター2階の調理研修室を出火場所と想定し、通報、初期消火、避難行動などの訓練が実施されました。

児童は職員の誘導で、混乱することなくスムーズに教室から移動していました。センター前の駐車場に避難後は、消火液の代わりに水の入った訓練用の水消火器を使い、目標物へ放水する練習を行いました。

総領自治振興区の中田博章事務局長は「訓練を重ねるたびに避難にかかる時間は短くなってきている。緊急時は誰でも慌ててしまうので、これからも訓練を大事にしたい」と話しました。



▲水消火器を使った消火訓練の様子

## ヒバゴンの歴史を振り返って

ヒバゴン出沒50周年記念誌の作成・4/15

No.3

ヒバゴン50周年実行委員会が「ヒバゴン出沒50周年記念誌」を作成しました。この記念誌は、1970年に西城町比婆山の麓で、ゴリラに似た体つきの謎の類人猿(ヒバゴン)が目撃されてから50年が経過したことを記念して作成されたもので、出沒から今日までのヒバゴンの歴史がまとめられています。

記念誌内には、出沒の記録や証言、新聞の切り抜きなど騒動の様子が細かく記載され、当時のさまざまな状況を知ることができます。また、恐怖の対象であったヒバゴンが、市のマスコットなど親しみやすい存在へ移り変わっていく、地域社会の動きも掲載されています。

記念誌は、西城町観光協会などで販売中です。ぜひ、ヒバゴンの歴史をご覧ください。



▲作成された「ヒバゴン出沒50周年記念誌」(価格800円)